

財っ子通信

第10号

文責 校長：三樹和幸

やりたいこと できることが増え

やらなければならないことが 確実に定着し みんなが伸びる学校

財光寺小学校

電話：54-2825

校長 Email:

zaikoji-k@hyugacity.jp

暖かさに驚かされるくらいの年末年始から、ぐっと冷え込んで冬らしくなってきました。そんな中、登校時の子供たちの服装は千差万別。体が一回り大きく見えるほど着込んだ子もいれば半袖を続ける子もいます。

寒さの感じ方は、人それぞれですが、体温を上げると免疫力が高まると聞きます。成長中の子どもにとって朝の布団の暖かさは至福のひとつですが、時間がなくなって保護者の送迎が常態化すると、折角の朝からの運動（登校）の機会を失ってしまいます。運動量が少ないと、筋肉量が減少します。筋肉は人の体では最大の熱を作る器官ですから、体温も下がり、基礎代謝も下がり、やる気も出なくなったら大変です。さあ、しっかり歩いて登校しましょう。



子どもの関心事

お子さんとの会話の時間は、日常的にありますか。

会話の中で、お子さんの本音は、聞けていますか。

忙しい大人にとって、子どもの話は時々自分の聞きたいことではないこともあります。

すると、どうしても子ども主体の会話ではなく、

「どうだった？」とか、「～がしたいの？」と親の興味や関心の高いところを会話の重点にして、子どもの考えを引き出すことが多くなります。

しかし、このやり方で本音が聞けるかは疑問です。

まどろっこしくて、時間もかかるけれど、充分待って、子どもに言葉を選ばせ、表現させる。

その表現こそが本音です。本音は、問われてから出てくるものではなく、子供自らが語る話や、話を割ってでも入ってくる話です。繰り返しますが、その話は大人にとって面白い話とは限りません。夢の話とか休み時間のギャグとかも多いですから。

しかし、それを聞いてやらなければ、本音なんて分からないと思います。省力化して、親にとって聞きたい情報だけ聞き出す話に、子どもの本音がどれだけ映るでしょうか。

「親は何でも楽しく聞いてくれる」という安心感があって、親もそのムードを出すと、子どもも近づいて、親を独占するように話をしてくれるのだと思います。

寒い季節は、家族が近づき本音が聞ける良い季節です。

ジャンピングボード

技術員の川邊さん製作のジャンピングボードが人気です。板の反発でジャンプが助けられるので二重跳び挑戦にはうってつけです。順番待ちができるほどです。

中には、「ハヤブサ跳び（交差二重跳び）」ができる子どももいます。チャレンジする子は魅力的です。

